

---

# テスト勝負！

愛夢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

テスト勝負！

### 【Nコード】

N1545N

### 【作者名】

愛夢

### 【あらすじ】

同じクラスで席が隣の渡来<sup>わたらい</sup> 夕菜<sup>ゆいな</sup>と槇原<sup>まきはら</sup>るい。いつもテスト勝負で勝つ夕菜は「負けたから好きな人教えて。」とるいに

言う。すると、るいは教えたら協力する・という条件でまりに好きな人を教える…。

その後、だんだんるいのことが気になる夕菜。でも、るいの好きな人は夕菜の心友！？

そして、夕菜の元カレ接近！？  
夕菜のハチャメチャな中2生活を  
暖かく見てあげてください（笑）

絶対負けへん！

「おい！今回のテストも分かってるだろうな。」  
テストが始まる5分前。るいが話しかけてくる。

「あんな、もうすぐテスト始まるんやで！それと今回もテスト勝負するん？」

「当たり前やろ。今回は渡来が負けるばんや！」

「勝手にうちが負けって決めやんといてくれますか？」

うちは、わたらい渡来 ゆうな夕菜。性別 女  
横でうるさいのが、まきはら槇原 るい。性別 男

ただいまテスト開始5分前。

うちとるいは別に幼馴染でもないし

同じ小学校だったけど、そんなに仲は良くなかった…。

中学に入って同じクラスで席が隣だから

よくしゃべるだけ。

「はい。テストはじめ！」

あ！テスト始まった

ほんで、さっきるいと喋ってた

『テスト勝負』やけど、

うちらは、毎回テスト勝負ってゆうて

テストの平均がどちらが高いとか、

五教科だけで勝負するときもあるし、

全部で勝負するときもある。

でも、今のところ全部うちが勝ってるねん

「はい！そこまで。鉛筆おいて後ろから集めて来い。」  
うちの名前は『わ』から始まるから出席番号は1番後ろ。  
いろいろ集めるのも慣れた。

「よ！今回のテストは俺が勝ったかも  
めっちゃ解けたもん。」

「はいはい。そうですか…。でもうちも負けてないで！」

るいは、すごくお子ちゃまだから誰からも  
かわいがられる…愛されキャラって感じ。

- 数日後 -

「はい。テストを順番に返していきます。」

バチ！

るいと目が合う。うつつ  
るいはその後、私を鼻で笑った。  
むかつく！！

「はい。渡来は結構がんばったな。」

テストを恐る恐る見ると……

あ！国語のテストは82点。  
がんばって良かった

自分の席に戻るといのが鼻歌を歌いながら待ってた。  
(今回もうちの勝ちやな。)

「どうやった？俺、結構良かったで！」  
「それはどうかな？うちは82点やで。」

るいの表情が曇る……。

と思ったらいきなり笑い出して

「俺の勝ちや！83点」

「うわー。1点差か…まあ、同点みたいなもんか。」

「お前！1点でも俺の勝ちや。そうか、お前俺に負けてくやしいんやな！」

「はいはい、そうです！でも他のテストはどうかな？」

ーそして数日後ー

「うちの平均点は…84点です」

「はあー。俺、76点」

結局うちが勝った！

るいの敗因は英語。こいつの英語の点数…42点(笑)

るいは英語が1学期から点数悪かってん。(ただ今、2学期の中間テスト)  
それで、いつもうちが勝ってたわけ

「ほんじゃ、るいが負けたからうちに好きな人教えてや!」

「はあ?お前絶対誰かに言うやる!」

「ううん。絶対言わんから!! おねがーい。」

るいが少し考えて…

「絶対誰にも言わん?」

「うん。うちが言うわけないやん!」

「そのかわり、俺が言ったら協力してくれる?」

「うん!するする。」

早く言うて。絶対協力するから!」!

「ほんじゃ、言うな…俺の好きな人は…。」





絶対負けへん！（後書き）

どうも！愛夢 です！

今回のテーマは：よく分かりません！（おいおい！）

さあ、るいの好きな人は？

まりの元力レ急接近！？

2話からまりのハチャメチャ生活が幕をあける

うちの気持ち…。わからん。

「俺の好きな人は…峰原やねん。」

峰原 みねはら りん（通称 りんりん）はうちの心友で  
超面白くてかわいいクラスの人気者。  
うちの幼馴染的そんざいの子！

「なるほどー。りんりんやったら納得いくわー！」

「ぜ…絶対誰にも言うたらアカンで。」

お前、峰原と仲いいから言いたくなかってん／＼」

るいが顔を真っ赤にして喋ってる。  
こいつも恋するんだなー。

「つで、お前はどうかやねん？」

「うちは、もう好きな人作らんから…。」

「拓のことがあったからかな？」

るいが、からかってくる…うつつ

…そう、うちは5月頃まで澤口 さわぐち 拓 たくと付き合ってた。  
卒業式に告白されて

その時うちも拓のことが好きやったから  
何のためらいもなく付き合い始めた…。

でも、中学でクラスも離れて拓に新しい好きな人ができた…  
とかゆうワサが流れてきたし、  
うち自身が拓のことが好きなのかどうかも分からなくなったから  
うちから別れた…。

「お前、拓とラブラブやったらしいやん（笑）」  
「う…うるさい！」

でもこの頃少しずつ後悔してきてる…。

ってこの話は置いていて  
今はるいとりんりんの話をしな！

「あんな、りんりんやったら  
今は好きな人おらんで言ってたから告白する？」

「う…俺も告白したいけど  
もしフラれたら嫌やから。」

でた。るいの意気地なし！

「でも、OKしてくれるかもしれへんし…諦めたら終わりやで！」

「うん。」

告白か…… 1回してみるわ。

その代わりお前も手伝って！お願い！」

「うん、手伝うで！

がんばりや。」

その時、少し視線を感じた……。  
振り返ったら、拓がおった！

すごいこつちを睨<sup>にら</sup>んでる。

なに怒ってんのかな？

その日学校が終わって  
うちが家に帰ったら一通のメールが  
携帯に入ってた。

「ん？誰やる？」

それは拓からのメール……。

FROM 拓  
TO 夕菜

- 本文 -

久しぶり

いきなりやけど……

夕菜って今、るいと付き合ってる？  
今日めっちゃ仲良く喋ってたから…。

それと、もしいけたら  
もう1回付き合わへん？

おれは他に好きな人おらんし  
夕菜にフラれた時結構ショックやったで…。

変なウワサが一時期流れたケド  
あれは友達が作った嘘やで。

もし、それで誤解してるんやったらごめん！  
返信は急がさんからゆっくり考えて…。

じゃあ、バイバイ

- E N D -

え…？

拓のウワサは嘘やったん…？

でも、なんかもう1回付き合うつて…。  
「どうしょー」。

頭がぐちゃぐちゃする！！！！！！

- 次の日 -

「おはよう、夕菜！」

「あーりんりん、おはよう。」

ちょっと相談してもいい？」

「ん？いいよ。なにになに？？」

「あんな、昨日……………」

……………」

「えっ？まじ？

で、もう一回付き合うん？」

「そこやねん！うーんどうしよう。」「

結局、2人で考えたけど、

りんりんは「自分でよく考えて、  
はつきり拓君に返事出し！」と言ってくれた。

そうやんな。これは

うちと拓の問題や！りんりんに  
頼ってたらアカン！！

「よ！おはよ。

どしたん？げんきくない？」

ドキ！

「お…おはよう。全然元気やで！」

ってゆうか…

うち、今るいにドキドキしてた!?

ありえん!…!!…!!

それに、るいはりんりんのことが好きやねんから。

その日の放課後…。

結局うちは

「ごめん! やっぱりもう拓とは…

付き合われへん。」

って拓に言った…。

うちって最悪やんな…。

拓は振るし…。

るいに少しドキドキするし…。

うち自身も自分の気持ちがわからんよ……。

「もういや…。」

どうしたらいいん?

うちはるいが好きなん??





うちの気持ち……。わからん。（後書き）

どうも！愛夢 です。

なんか大変なことに

なっってきましたね！！

るいのことが少しずつ気になり始めた夕菜……。

でもるいはそのことには全くきずかない超ー鈍感クン

夕菜の気持ちとるいの気持ちの

すれ違い……。

3話もよろしく願いします！！

すきになって…ごめんね。

うちはるいのことが好きなん？

自分でもバカげてるって思ってる…。

だって、るいはりんりんが好きやもん。

それに、るいに1回ドキッてただけで  
そんな風に思ったらアカン！！

「渡来ー

さつき峰原とめっちゃ喋ってん！」

「はいはい…。

良かったやん。」

ヤバイ…。またるいにドキドキしてる。

でも、絶対好きになっても叶わん恋やもん…。

キンコンカーンコン

「はい、早く席に着け！英語始めるぞ。」

はあー。

あのときに拓ともう1回付き合ってたなら…  
うちはるいを好きにならんですんだのかな？

拓を振ったこと…

るいを好きになったこと…

後悔ばかりがうちを締め付ける…。

「……であるからして、このことを現在進行形という。えーっと槇原分かるか？」

「え…えーと分かると思うけど…。」

るいが、うちの方を見てSOSサインを出してる。

はあー。

こっそりるいに答えを教える。

やっぱりうちらは

気が合う友達が1番なんだよな…。

「はい。今日はここまで！終わります。」

「おい！さっきはありがとう。」

俺マジで英語苦手やんかー、やから助かったわ！」

「うん。」

うちはそれだけ言つと女子トイレに逃げ込んだ…。

やっぱりうち…るいが好き。  
でも絶対叶わない…。

泣きそう。

りんりんごめんね。  
るい。好きになってごめんね。

でも好きなんだ…。

すきになって…ごめんね。（後書き）

どうも！愛夢 です。

自分がるいのことを好きと確信する夕菜。

でも、叶わない恋とるいのことを諦めようとするが  
夕菜には出来なかった…。

4話目ではるいの告白！？

次話もよろしく願います

## 奇麗事（きれいごと）と後悔。

「渡来ー」

俺な、今月中に峰原に告ろつと思っねんけど…

どう思っつ？？」

え…？お願い。

りんりんに告白しゃんというて。

「う…うん。いいんちゃう？」

がんばりや！」

どんなに告白してほしくなくても

がんばりや！なんてうちは奇麗事言っんやね…。

告白…か。

ほんまにいろいろのことを諦めやんな  
アカンのかな？

でも、絶対に諦められへん…。

うち、どうすればいいん？

「また相談するけど…よろしくな」

るいが照れくさそうに笑ってる。

それを、見るのがつらい。

学校から帰ると  
ベットにダイブする。

るいの照れくさそうな顔…

本間にりんりんのことが好きやねんな。

こんなことを考えてたら今にも泣きそう…

ー次の日ー

「オッス！

なあなあ、今日の放課後

告白するってゆうのはどう？」

「おはよ！

うーん放課後か…。

りんりんクラブで忙しいから

そんな暇ないかも。」

なんとか告白の延期を求めるように  
言い訳を作る…。

はあー

うち最悪や。

「そっかー

じゃあ、なんて告白したらいいやろ？

お前、言葉とか考えて！おねがい。」

「そ…そこは自分で考えて！  
何でもうちに頼らんといて！-！」

るいにそういつて  
また女子トイレに逃げ込む。

だって、うちだつてるいのこと好きやのに…  
告白の手伝いなんか…  
告白の台詞せじふなんか…

考えれるわけないやん。  
るいのアホ！！

あ…  
今思えばうち、るいに思いっきり八つ当たりしてる…。

うちは人生で何回後悔すればいいん？

るいに嫌われた…かな？

ため息をつきながら  
自分の教室に戻る。

机に座ると  
横からるいが  
大丈夫？みたいな目でうちを見てくる…。

「夕菜 おはよ！



るいもおはよ！」

「あーりんりん。おはよ！」

元気そうなうちを見て

るいもホッとしたような顔になる。

そして、りんりんが自分の席に着くと

「渡来。」

さつきはごめん！

それと俺、今日峰原に告白するわ。  
言葉もちゃんと自分で考える！」

え…？

うそー！ー！！！！

告白するん・・・

しかもきょう！？

パニックになつてる気持ちを抑えて

「そっか！がんばりや。」

ほら！また奇麗事きれいごと言っちゃった…。

本日2度目の後悔。



奇麗事（きれいごと）と後悔（後書き）

どうも！愛夢 です。

るいがいきなり告白の決意！？

とまどう夕菜。

りんりんはこのことをどう受け止める？？

次話はハチャメチャになりそうです；

でも、暖かい目で見守って下さい

好きでおっていいの??

2度目の後悔をした私は  
どうしていいか分からなかった…。

授業中もるいの告白のことが頭から離れなくて、  
ボーっとしている時間が過ぎた…。

「…たらい…」

頭からるいとりんりんの笑顔が離れない

「わ・た・ら・い！」

聞こえてる??おーい。」

「わあ!おどかさんといてや…。  
どしたん??」

「いや、お前顔色悪いから…  
大丈夫かな?って思っただけ。」

え…?

心配してくれてるん?

それだけで

もっと好きになりそうや。

「ありがとう！」

ぜんぜん平気やで。

うちが顔色悪いわけないやん！」

「そうやな…。」

じゃあ、さっきのは無しってことで！」

それだけ言うといは友達の方に走っていった。

あーあ、行っちゃった。

もっと喋っとけば良かったな…。

ーその日の放課後ー

ピロロロロ

ん？

誰かな？

「はい、もしもし。渡会ですけど…」

「もしもし、榎原ですけど。」

夕菜さんいますか？」

「あ…うちやけど。」

どうしたん？」

「実は俺、さっき峰原に電話で告白してん。」

ズキン…。

胸が破裂するかと思った。

いきなりそんなこと言われても。

うちが苦しくなるだけやん・・・。

「そ…そっか。」

OKやったんやろ？」

「それが…」

ともだちでおろ？って言われた。」

痛かった胸が

嘘みたいに痛さが和らぐ…。

「そうなんや。」

まあ、次の恋がんばればいいやん！」

「お…おう！」

また、よろしくな。」

るいとの話はそれで終わりやった。

なんだか

胸が痛いけど

痛くない…。

よく分かん。

ってゆうことは…

うちは、るいのことを好きでおっていいの？

るい…。

うちが告白したらOKくれるん？

好きでおつていいの?? (後書き)

どうも！愛夢 です。

視力低下の為パソコンがしばらくできませんでした（涙；）

そんなことは置いといて…

るいの告白を断ったりん！

るいのことをまだ好きでいていいのか  
分からない夕菜…。

複雑な恋…カナ??

次話も

よろしく願いします



素直になりたい。

うちとるいの関係は？

友達がいちばん…なんかな。

そんなこんなを考へてる間に時間は過ぎて  
気づくと昼休み。

りんりんは、るいとのことを話してくれなかった。  
…いや、わざと話さなかったのかな？

「もー！！イライラするし意味分からん#」

あ……

無意識に大声出しちゃった…

それに、いきなり教室で叫んだから  
皆びっくりして視線は一気にうちに集中。

「夕菜！いきなりどーしたん？叫んだりして」

「ごめんー。なんかいろいろあって、…（笑）」

「…あんな、いきなりで悪いねんけど。夕菜はるいのことどう思う  
？」

「え？なんで？」

自分では、とぼけたつもりでも心友には全部ばれてた。

その後もりんりんとの会話は続いて、家に帰っても、メールもして、電話もして・・・

お互いに、これまでであった事とか自分自身の気持ちも言った。

まあ、つまり、るいの事すきってことも。

ついでのりんりんが、るいを振ったのはうちの気持ちに気付いてたから。

「夕菜はるいの前とか肝心なところで、意地張ってるからもつと素直になったら？」

あたしは素直な夕菜が好きやで！」

りんりんがこんなことをメールで送ってきた。

素直になる…か。

自分の気持ちに一番素直になりたい。

そんなん教えられるか!!

素直になる...か。

ー次の日ー

「渡来!つはよ。」

「あ、るい。      おはよー!」

「なんで今日そんなテンション高いん!?!」

「ん?まあ、色々あつてん」

やっぱるいと喋ると変にテンション上がるな。

そして、テンション上がりっぱなしのまま昼休みに...

「なあ、渡来つて好きな奴おらんの?」

「はい!?!いきなり何??!」

つびくりしたー。

まさか、るいにそんな事聞かれるとは;

「おるけど...。」

「えっ!そうなん?誰々?!!?」

「教えへーん」

「別に教えてくれてもいいやん。」

そんなん…聞いている張本人が好きなんて言えるか!!

「とりあえず今は無理!」

「うーん…ほんなら、もうすぐ期末テストあるし  
そのテストで俺が勝ったら教えて!!」

「……うん、いいよ。」

今までうちが勝ってるんやし、いける。

そうして、この二人だけテスト2ヶ月前から勉強し始めたのだ…。

そんなん教えられるか!! (後書き)

どうも!愛無 です。

なんか大変になっちゃいましたね(笑)

自分でもこの先が分からなくて困ってます:オイオイ!

つてことで、とりあえず次の話も

よろしく願いします

## 決戦のとき。

「とうとう、テストまで1週間になりました！  
しっかり勉強して満足のいく点数を取ってください！！」

「はあーい。」

みんな一気にテンション下がっちゃったみたいやな。  
まあ、うちはあるに好きな人を教えへん為にも  
2ヶ月前から勉強してたから  
安全そのもの！！

「よっ！渡来ー1週間前やけど俺に好きな人を  
教える覚悟は出来たんかな？」

「よう言うわ！残念やけどるいがうちの  
好きな人を知るには3年早いな」

そんな話をしながら時は過ぎ…（笑）

決戦のとき、ゝゝ。  
いよいよテストが始まるぞー！！！！

現実逃避したい。

「……はい、そこまで。鉛筆置いて後ろから答案集めろ！」

「はあー、やっとテスト全部終わった。」

「おつかれ！夕菜顔色悪いで。勉強しすぎー（笑）」

「えー、りんりんも勉強のし過ぎやでー」  
ただ今テストが終わりました

「渡来、峰原おつかれ！」

「おっ、るいおつかれ！！」

バチッ！！

やっぱりうちとるいの目が合う。

後から聞いたけど、

うちとるいの間に火花が散ってたという証言した人が20人ほどお  
つたらしい。

――次の日――

「今からテスト返していくぞー。」

どうか神様、アホるいに勝ってます様に…。

「… 渡来今回はあんまり調子が良く無かったんか？」

「え??？」

恐る恐るテストを見ると、、、、

国語が72点!?! だいぶ落ちてる…。

「渡来ー どうやった?？」

「はあー最悪。72点・・」

「え?俺もやねんけど」

「…ほんじゃ、引き分け?？」

「むっちゃ悔しいー!! 渡来には勝ったと思ったのに。」

「他のテストで勝敗決まるな。」

――数日後――

結局、うちの平均点は80・5点やった。  
るいに勝ったかな?？」

「渡来は平均点いくら?？」

「うちの平均点はー…80・5点」



「俺はー… 81点!! やったー、渡来に勝ったー」

「嘘やろ!?!」

「ほんまやもん! 苦手な英語も克服したし」

るいがうちに向けてVサインを出してくる。

やばい… るいに言わんな…。

でもるいに、うちの好きな人を教える!! 告白!?!

今最高に現実逃避したいです。

学級閉鎖ならんかな…???

現実逃避したい。(後書き)

お久しぶりです

夕菜がるいに負けてこのまま告白か!?

2人の運命は?(笑) 言いすぎました;

こんな感じですが次回もよろしくお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1545n/>

---

テスト勝負！

2010年11月2日13時53分発行